

名称	説明	更新日
鉛	<p>元素記号Pb、原子量207.2</p> <p>鉛の毒性としては激しい腹痛、貧血、高血圧、頭痛、全身倦怠感、脳症や腎臓機能障害などがあり、死に至る可能性もある。また、妊婦が摂取した場合の毒性として、流産、死産、早産、低体重出産、および、まれに先天性異常が生じるおそれがある。WHOは成人における暫定的耐容週間摂取量は25µg/kg体重/週とし、小児においては成人に比較し、鉛の吸収率が高いため注意を促している。</p>	2020/09/29更新
エフェドラ	<p>エフェドラは「麻黄 (マオウ) 」と呼ばれ、有効成分としてエフェドリンを含む植物。</p> <p>エフェドリンによる有害事象として、めまいや頭痛、食欲減退、不安神経症、胃腸障害、不眠、高血圧などがあり、死に至る危険性もある。エフェドリンとカフェイン、その他の興奮剤を同時に摂取すると、めまい、震え、頭痛、不整脈、心臓発作、精神病、脳卒中などの有害事象が誘発される可能性がある。特に、心臓疾患や高血圧症、甲状腺疾患、糖尿病、不安神経症、緑内障、褐色細胞腫などの疾患がある人は、症状を悪化させる可能性がある。また、妊婦や授乳婦の使用は禁忌。</p> <p>日本ではエフェドラは「専ら医薬品成分として使用される成分本質 (原材料) 」にあたり、食品として使用することは出来ないが、インターネットなどを利用した個人輸入では意図せず入手する可能性もあるため、注意が必要。</p>	2020/08/18更新
クラトム	<p>タイ、マレーシア、インドネシア、パプアニューギニアに自生する植物Mitragyna speciosaの通称 (別名：アヘンボク)。</p> <p>痛みやうつなどの改善など様々な効果を謳って販売されているが、利用により痙攣発作、肝障害などの重篤な病態を含む様々な健康影響を生じるリスクがあり、死亡事例も報告されている。</p> <p>日本ではKratom (省令名：ミトラガイナ スペシオーサ、ミトラガイナ属に属する他の種との交雑種を含み、直ちに人の身体に使用可能な形状のもの) およびこれに含まれる2物質 (7-Hydroxymitragynine、Mitragynine) が指定薬物とされている。</p>	2020/05/19更新
サルモネラ菌	<p>グラム陰性の通性嫌気性桿菌で、腸内細菌科に含まれる細菌の一属。</p> <p>幼児、または虚弱体質や高齢者においては重度または致命的な感染症を引き起こす可能性がある。</p> <p>また、健康な人においても、発熱、下痢、吐き気、嘔吐、腹痛などの症状を引き起こし、まれに感染性動脈瘤、心内膜炎、関節炎のような重篤な症状を引き起こす可能性があるため、注意が必要。</p>	2020/04/16更新
テトラヒドロカンナビノール (THC)	<p>インドアサの雌株の花穂から分泌される樹脂ハシシ中の成分。中枢神経に対して阿片と同様の麻薬中毒作用を示す (1)。</p> <p>日本では、THC を含有するCBD製品は大麻に該当しないことが確認できないため、原則として輸入できない。</p> <p>(1) 理化学辞典 (第5版) : 岩波書店</p>	2022/09/20更新

名称	説明	更新日
フェネチルアミン	<p>フェネチルアミンはチーズや魚の加工品、ワイン、ビールなどに存在する香気成分で、食品添加物の香料として使用される場合は、安全性への懸念はない。</p> <p>一方で、フェネチルアミン誘導体は、人の体内ではドパミンやノルアドレナリン等、神経伝達物質として知られている。また、抗うつ薬や抗肥満薬、強心薬等に用いられる一方、危険ドラッグとして多様な類似体が流通しており麻薬及び向精神薬取締法の対象とされる。</p>	2020/09/29更新
フェノールフタレイン	<p>塩基性で赤色を示す (変色域はpH8~10) pH指示薬の1つ。</p> <p>以前は医薬品 (下剤) として使用されたこともあるが、発がん性などのおそれがあるため、現在は医薬品として使用されていない。</p>	2020/12/22更新
ブフォテニン	<p>ヒキガエルの皮膚分泌腺などに含まれているインドールアルカロイドで、国内では「専ら医薬品として使用される成分」に区分される。構造は生理活性アミンであるセロトニンに似ており、幻覚作用を有す。</p>	2020/11/27更新